

機能分散型宿泊施設としての「銭湯志向型ゲストハウス」に関する研究

一京都市におけるゲストハウスと銭湯の相互関係に着目してー

A Study on "Sento (Public Baths) Oriented Guesthouses" as Function Distributed Accommodations:

Focusing on Reciprocity of Guesthouses and Sento in Kyoto

37-196164 沼田康佑

As tourism being diversified, also form of accommodations are changing. Guesthouses, small and cheap accommodations appeared and are increasing recently, and some of them are located near Sento and are conscious of them. In this study, such guesthouses are defined as "Sento Oriented Guesthouse" and their issues are revealed. Relationships between some Sento and guesthouses are coming about because Sento is one of the landmarks for guesthouses and guesthouses are increasing near Sento. To make the relationship stronger, it should be advantage in management for each other. However, It is difficult to make a discount because of financial reasons, so subsidy is necessary. Strong relationship will have a beneficent influence on both Sento and guesthouses, on the tourists, and also on the local community.

1. 研究の枠組み

1.1. 研究の背景

近年、観光のあり方が多様化してきている中で、宿泊施設も変化を遂げてきた。日本では2000年代に入ってからゲストハウスと呼ばれる、宿泊費が安く交流機能を持った宿泊施設が台頭してきている¹⁾。ゲストハウスは施設内に飲食機能や浴室機能を十分に持たないことが多く、そうした機能をまちの施設に依存していることがある。

2017年には日本まちやど協会が設立された。まちやどとは「まちを一つの宿と見立て宿泊施設と地域の日常をネットワークさせ、まちぐるみで宿泊客をもてなすことで地域価値を向上していく事業」²⁾であり、これまで観光地として捉えられていなかった場所にも多く立地している。

このように地域とともに持続可能な形で観光業を成り立たせていくことが今後一般的になることが想定される一方で、既に観光地化が進み知名度のある都市では観光公害が深刻化してきている。観光公害の具体例として、騒音³⁾やゴミの捨て方、交通混雑が問題に上がることが多いが、同時にいわゆるジェントリフィケーションが発生することも問題である⁴⁾。住宅だった建物に限らず、それまで地域の生活に強く結びついていた商店などが宿泊施設化し、地域生活に影響を与えている⁵⁾。

観光のあり方はまた変わる必要がある。具体的には観光に強く依存する都市は成り立ちにくくなることが予想される。即ち、宿泊施設をはじめとする観光的機能と、地域生活機能との調和が求められる。そうした背景を受けて、まちやどやイタリアのアルベルゴ・ディフーズのような地域資源を活用した「機能分散型宿泊施設」

の重要性は今後一層高くなることが予測されるものの、一方でそうした宿泊施設についての知見はまだ少ない。

1.2. 研究の目的

本研究の目的は、地域に根差した観光形態の一つとして、日本の生活文化に即した、都市型の「機能分散型宿泊施設」のあり方について示唆を得ることにある。そのために以下の2点が小目的となる。

①地域施設として銭湯に、宿泊施設としてゲストハウスに着目し、それぞれについて周辺空間の特徴を明らかにする

②銭湯とゲストハウスの相互関係の現状と課題を明らかにし、より両者が協力関係を持つために必要な施策についての示唆を得る

1.3. 既往研究の整理と本研究の位置づけ

銭湯については、銭湯立地と市街地拡大、道路・鉄道、及び商業施設との関係性は明らかにされている⁶⁾が、宿泊施設との関係性についての研究は見られない。また管見によれば京都市を対象とした銭湯立地に関する研究は見られない。

ゲストハウス・簡易宿所についての研究はここ10年で進んでおり、特にその交流・コミュニティ機能については建築的観点から多くの研究が行なわれている⁷⁾。またその開業や地域との関係に関する研究も一定の蓄積がある⁸⁾。一方で地域施設との関係や立地展開についての研究は多くなく、関係する地域施設として銭湯が挙げられていることはあるものの、銭湯との関係を主題とした研究は管見の限り見られない。また、特に宿泊施設による地域への悪影響を論じる際にはゲストハウスという枠組みではなく簡易宿

所という枠組みで論じられることが多い。

本研究は地域施設と宿泊施設との関係、その中でも銭湯とゲストハウスとの関係に着目している点に独自の見解が得られ、特にそれぞれの周辺施設も含めた立地傾向に着目している点が特徴である。加えて「機能分散型宿泊施設」としてゲストハウスを捉えている点も独自の視点である。また銭湯とゲストハウスが相互に及ぼす影響に着目しているという点に関して新規性を有すると考えられる。

1.4. 研究の対象地

本研究では、銭湯とゲストハウスの数がそれぞれ日本有数であり、かつ「オーバーホテル」⁹⁾問題が近年顕著になってきているなど観光と地域生活の乖離が進む京都、その中でも特に京都市を対象とする。

1.5. 研究の構成と手法

本研究の構成と手法は図1の通りである。

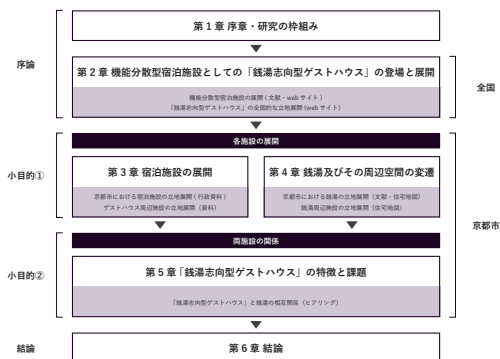


図1 研究の構成と手法

1.6. 用語の定義

ゲストハウス

ゲストハウスの定義は既往研究においてもそれぞれ少しずつ異なっている（表1）。石川（2014）らは「ゲストハウスやバックパッカーズ、ホステル等と自称している宿泊施設」と定義しているが、石川（2018）ではゲストハウスの形態が多様化・細分化しており、ゲストハウスと一括りにして調査等を実施するには限界が生じていることを指摘し、その定義を見直していく必要性を述べている。

本論文では宿泊施設と地域との関係という観点から、宿泊客が積極的に地域に出ていく仕様、

文献	定義
石川(2014)	ゲストハウスやバックパッカーズ、ホステル等と自称している宿泊施設
氏川ら(2017)	施設名またはホームページ上で、ゲストハウスとよばれる宿泊施設
太田(2020)	①宿舎(ドミトリ)スタイルの宿泊施設があること②シャワーやトイレ等の水廻りが共用であること③交流の有無に関わらず、宿泊者同士の交流が可能なスペースがあることゲストハウス等の名称が確認されない場合であってもこれら全てを満たしているものは対象
澤田ら(2012)	一泊2,000円から3,000円程度の安価な施設で利用できる宿泊施設。ドミトリ形式(宿舎型)、共同スペースであるリビングルーム、自炊することのできるキッチンがあること。基本は食事を提供せず、トイレ・洗面・シャワー等の施設は共用で使う
片桐ら(2015)	ゲストハウスやバックパッカーズ、ホステルと称し、ドミトリルームの提供や宿泊を基本とした低価格の小規模宿泊施設
土橋(2020)	格安料金、無料泊り、宿舎(ドミトリ)、交流スペースによる情報交換等
荒川ら(2018)	無料泊りを基本とし、ドミトリと呼ばれる共同浴室を有し、トイレや浴室などを共同で使うことが認められる簡易宿所と呼ばれる営業形態
山平ら(2018)	無料ゲストハウス、ホステル、バックパッカーズと称していること・予約サイトやホームページが存在し、営業が確認できること・費経費的期間が1日であること・宿泊者が共有する食事をするための空間があること
奥田ら(2015)	①簡易宿所営業②ドミトリあり③交流空間あり④短期滞在を主とする⑤安価(1泊2000円～3500円程度)

表1 既往研究におけるゲストハウスの定義

すなわち①洗面・シャワーの共用②夕食の提供なしの2点、そしてそれに加えて③ゲストハウスやバックパッカーズ、ホステル等との自称の3点をゲストハウスの定義とする。なお、既往研究で多く見られた「ドミトリ（相部屋）を有する」「ゲスト同士の交流機能」という定義については、新型コロナウイルスの流行における影響から不採用とした。

機能分散型宿泊施設

シティホテル内に組み込まれているような客室、飲食、浴場、土産物店といった機能がまちに分散しているものと定義する。

銭湯志向型ゲストハウス・銭湯案内型ゲストハウス

ゲストハウスのうち、近隣銭湯の存在を意識しているものを「銭湯案内型ゲストハウス」とする。具体的には公式webサイトにおいて近隣の銭湯を案内しているものを指す。

またその中でも

- ①. 銭湯セット（タオルやボディソープなど）が用意されている
- ②. 銭湯と関係したプランが用意されている／割引券等を販売している
- ③. 銭湯経営者が運営している

以上3つの条件のうち1つ以上に該当するゲストハウスを、本論文では「銭湯志向型ゲストハウス」と呼称する。

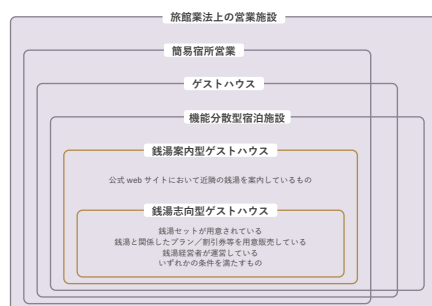


図2 各用語の関係図

京都市中心部

加登(2020)の定義である「京都市下京区・中京区・上京区・東山区」に加え、旧京都市域の上京区を含めるため、京都市明細図及び住宅地図の区分を参考にし、左京区の南部を上記4区に含めた範囲を本論文では京都市中心部と定義する。

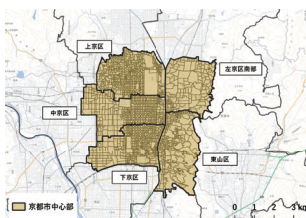


図3 京都市中心部の定義

(図3)

2. 機能分散型宿泊施設としての「銭湯志向型ゲストハウス」の登場と展開

2.1. 機能分散型宿泊施設の展開

海外における機能分散型宿泊施設で有名なものにはイタリアのアルベルゴ・ディフーズがある。アルベルゴ・ディフーズは「1976年に北イタリアを襲った震災をきっかけに、当時地域の宿泊業組合会長だったジャンカルロ・ダッラーラ (Giancarlo Dall'Ara) 氏が1982年に考案し、試行錯誤の中から生まれた民泊システム」(渡辺ら, 2015)であり、地域の日常的な生活を体験できることや、集落全体を宿と捉えて巻き込むことで地域活性化に繋がること、空き家を活用することで大規模な開発や資本が必要でないことがその魅力やメリットである。

日本の機能分散型宿泊施設については、「まちやど」をはじめ関連する事業者・団体の存在がいくつか認められる。それらとアルベルゴ・ディフーズとの大きな違いとしては、都市部にも立地していることが挙げられる。背景にはイタリアと日本の都市構造や観光への意識が異なることが推察される。

2.2. 全国的な「銭湯志向型ゲストハウス」の展開

「銭湯案内型ゲストハウス」の全国的な分布について分析を行なう。調査方法は以下のとおりである。

- ①. 全国の宿泊施設情報をまとめたwebページ「旅行と宿のクリップ」上で、「民宿/ゲストハウス」に分類される宿泊施設4,255軒から、施設名もしくは施設の説明に「民宿」という語を含む施設を除外する。
- ②. 残った施設の中から、その公式HP上で「銭湯」という語を述べているものを抽出する。

- ③. 抽出された施設について、第1章で定義した「ゲストハウス」に該当するものを再び抽出する。
- ④. 再び抽出された施設について、再度公式HPを確認し、実際に近隣の銭湯を案内しているか公式HPの記述を基に判断する。
- ⑤. 実際に近隣の銭湯を案内している施設を「銭湯案内型ゲストハウス」とする。
- ⑥. その他、Google検索を用いて旅行と宿のクリップには掲載されていない施設についても調査を行なう

なお「旅行と宿のクリップ」については、石川ら(2014)、石川(2018)、松原(2016)等の先行研究でもゲストハウスを抽出する際に用いられている。また調査は2021年1月に行なっている。

以上の調査を通して得られた「銭湯案内型ゲストハウス」の都道府県別の分布は図4のように

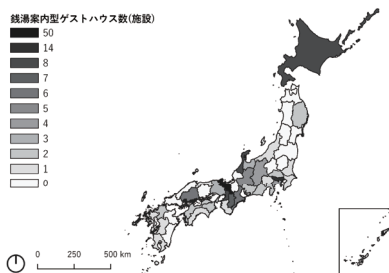


図4 都道府県別「銭湯案内型ゲストハウス」数

なっている。図が示すように、「銭湯案内型ゲストハウス」は京都府で突出して多く、次いで東京都、北海道、石川県、大阪府が多い。それに対して14県には「銭湯案内型ゲストハウス」が1軒も見られず、20県で1施設もしくは2施設しか見られない。「銭湯案内型ゲストハウス」が多い都道府県は大都市を抱えるものが多い。銭湯は基本的に都市部に立地するため、都市部のゲストハウスで銭湯を案内する傾向が見られる。逆に「銭湯案内型ゲストハウス」が少ない都道府県には、そもそも銭湯がほとんど存在していないことが多い。特に東北については、山形県の1軒をはじめとして青森県以外の県では一般公衆浴場がほとんど見られないことから「銭湯案内型ゲストハウス」もほとんど見られない。

海沿いや合宿地については民宿が発達しており、ゲストハウス自体が少ないうえに、そうした民宿は浴槽を設けており周辺で銭湯が成り立ちにくい。

また岐阜県の施設は5軒中5軒が高山市に、三重県の施設は6軒中5軒が伊勢市に立地している。京都府については、50軒中49軒が京都市に立地している。このことから、古くからの

街並みが残る観光地に立地しやすいことが推測できる。

「銭湯案内型ゲストハウス」の都道府県別の施設数は、案内型と同様に京都府でもっとも多く15施設見られる。一方で東京都、大阪府については案内型とは異なりそれぞれ1軒と少なくなっている。三重県伊勢市は4軒、岐阜県高山市は3軒と案内型に対して志向型の割合が高い。観光地においては他の都市に比べて銭湯が地域資源化しやすい可能性が示唆される。

また案内している銭湯が徒歩圏にあるゲストハウスについて、ゲストハウスから銭湯までの平均所要時間は徒歩6.125分である。

銭湯が併設しているゲストハウスは5軒あった。そのなかには宿泊者が銭湯に入り放題のゲストハウスなど、銭湯がゲストハウスの特徴・資源になっているものが見受けられる。また、旅館業法施行令第1条2項4に基づき「当該施設に近接して公衆浴場がある等入浴に支障をきたさない」と認められる場合を除き、宿泊者の需要を満たすことができる規模の入浴設備を有す

ること」が簡易宿所営業の施設に対して定められているが、銭湯を併設しているゲストハウスについてはこの既定の例外にあてはまるため入浴設備を別途設ける必要がなく、その点でも銭湯がゲストハウスの資源になっていることが推測できる。

銭湯経営者の家族が運営する大阪府大阪市の「銭湯志向型ゲストハウス」へのヒアリングからは、ゲストが銭湯を利用すればシャワールームの掃除をしなくてよく、ゲストがずっとゲストハウスにいてもなくなるという点で銭湯とゲストハウスの相性はいいこと、ゲストハウスが銭湯利用の入口になっており、銭湯に入浴する文化を人に伝えるための手段となっていることが明らかになった。

3. 京都市における宿泊施設の展開

3.1. 京都市の宿泊施設に関する制度

京都市では旅館業法等に則り宿泊施設に対する条例・規則・要綱が整備されている。特に「小規模宿泊施設」についての特例など、京都市特有の制度が設けられている。また、京都市宿泊施設拡充・誘致方針を基にした、条件を満たす宿泊施設への支援制度が整備されているが、一方で急増した宿泊施設に対応するためには宿泊施設の建築にあたっての制限を増やそうとしている。また京都市上質宿泊施設誘致制度等、京都市に立地する宿泊施設のタイプをコントロールしようとする動きが見られる。宿泊施設が地域や市民生活との調和や、地域の活性化に寄与することが求められている。

3.2. 京都市の宿泊施設の分布

旅館・ホテル営業は中京区東部、下京区東部、東山区北西部に多く分布している。これらの地域は京都市営地下鉄をはじめとする鉄道網が発達しており、また河原町通りなどの大通りがあるためアクセス性が高い。加えて用途地域は商業地域に該当し、建蔽率・容積率ともに規制が緩いため中規模以上のホテルが立地しやすいことが考えられる。一方で簡易宿所営業は五条通り周辺への集積が見られるものの、旅館・ホテル営業と比較すると上京区北部や中京

施設名称	所在地	条件①	条件②	条件③	案内している銭湯までの距離	備考
ゲストハウス まるご	北海道旭川市	-	○	-	併設	入浴料込み、銭湯併設
和の風	北海道小樽市	○	○	○	併設	宿泊者料金、ハンドタオル等の無料レンタル
ゲストハウス3710	岩手県金沢市	○	-	-	徒歩3分	銭湯セット
とくとー監司の泊まれるたまり場ー	岩手県盛岡市	○	-	-	徒歩11分	銭湯セット
ゲストハウスカマタ1	東京都千代田区	○	-	-	徒歩1分	銭湯セット(無料)
Yokohama Guesthouse HAQO, TATAMI.	神奈川県横浜市中区	-	○	-	徒歩3分	割引入浴券販売
町田香雪 秋父庵	埼玉県秩父市	-	○	-	徒歩4分	宿泊証を提示すると銭湯入浴1回無料
金沢町家ゲストハウスあかつき屋	石川県金沢市	-	○	-	徒歩3分	入浴割引券あり
Salon & Stay 初屋(Uica)	石川県金沢市	○	-	-	徒歩11分	銭湯セット(300円)
飛騨高山ゲストハウス とまる	岐阜県高山市	○	-	-	徒歩10分	銭湯セット
cup of tea	岐阜県高山市	-	○	○	併設	特別価格
銭湯旅館 湯島庵(風の道)	岐阜県高山市	-	○	○	併設	銭湯入浴料込み
THY GUEST HOUSE	三重県伊勢市	-	○	-	徒歩11分	キャッシュバック券
伊勢ゲストハウス そら	三重県伊勢市	○	-	-	徒歩2分	無料のボディソープとシャンプー
宿屋 五十鈴	三重県伊勢市	-	○	-	自動販売機15分	割引券
伊勢ゲストハウス結会(つむぎや)	三重県伊勢市	-	○	-	徒歩3分	割引券
銭湯つなゲストハウス水郷(もくもく)	大阪府大阪府東淀川区	○	○	○	徒歩1分	銭湯風呂敷の着子や蒲葦、銭湯入り放題
ゲストハウス 菜の花	京都府京都市中京区	-	○	-	徒歩6分	銭湯風呂敷
RAK KIVOMIZU	京都府京都市東山区	-	○	-	徒歩3分	入浴券販売
京都ゲストハウス水郷	京都府京都市上京区	○	○	-	徒歩15分	銭湯セット、銭湯セット付プラン
町家ゲストハウス 沖のまちやど	京都府京都市左京区	○	-	-	徒歩5分	シャンプーとボディソープ
ゲストハウス こぼこ	京都府京都市左京区	○	-	-	徒歩11分	銭湯用セット
ゲストハウス和泉庵	京都府京都市左京区	-	○	-	徒歩9分	町家deドックスプラン
はる家 栢小路	京都府京都市下京区	○	-	-	徒歩12分	銭湯セット
はる家 東山	京都府京都市東山区	○	-	-	徒歩5分	銭湯セット
市販店 URONZA GUESTHOUSE	京都府京都市下京区	-	○	-	徒歩5分	銭湯チケット
京の町家しづや	京都府京都市下京区	-	○	-	徒歩6分	銭湯チケット付プラン
スズメゲストハウス	京都府京都市上京区	-	○	-	徒歩1分	銭湯入浴券(割引券)
女性専用ゲストハウスたい	京都府京都市伏見区	○	-	-	徒歩5分	風呂敷無料貸出
京都町家ゲストハウスつじしん	京都府京都市中京区	-	○	-	徒歩12分	銭湯チケット込みのプランあり
金家	京都府京都市上京区	○	-	-	徒歩4分	銭湯セット(無料、日帰りプランのみ)
宿屋	京都府京都市東山区	○	○	○	自動販売機10分	宿泊者向け銭湯ツアー(無料)、タオル等貸し出し
吉原家 宿 宝楽庵(きいかあん)	京都府東山区	○	○	-	徒歩3分	無料入浴券、銭湯バッグ
奈良橋福山	奈良県奈良市	○	-	-	徒歩8分	銭湯用シャンプー、ボディソープセット
吉白	奈良県奈良市	○	-	-	徒歩5分	シャンプー、バスタオルは貸で無料貸し出し
シロノシダゲストハウス 新築のお宿	兵庫県姫路市	○	-	-	徒歩7分	ボディソープ等を無料貸し出し
Guesthouse RICO	和歌山県和歌山市	-	○	-	徒歩1分	銭湯入浴券(割引券)
旅人の家・ゲストハウス カガやまの花	広島県福山市	-	○	-	徒歩10分	割引券
大浜	愛媛県八幡浜市	-	-	○	併設	宿泊者は銭湯無料

注：条件① 銭湯セット(タオルやボディソープなど)が用意されている
条件② 銭湯と関係したプランが用意されている／割引券等を販売している
条件③ 銭湯経営者が運営している
ゲストハウスから銭湯までの所要時間は基本的にゲストハウス公式HPの記載のものである。記載のないゲストハウスについてはGoogle Mapsの機能を用いて算出した。

表2 全国「銭湯志向型ゲストハウス」リスト

区西部などに広がって分布している。簡易宿所は住居からの用途変更がしやすく、ゆえに中心から離れた住宅の多い土地にも立地しやすいことが考えられる。

3.3. ゲストハウス周辺空間の分析

京都市に立地するゲストハウスについて、ゲストハウスが発行するオリジナルマップの情報を基にその周辺空間を分析した結果、各ゲストハウスともオリジナルマップでは飲食店、コンビニエンスストアや土産物店等の小売、コインランドリー、郵便局等の地域施設、そして銭湯を紹介していることがわかった。またゲストハウスの周辺空間は平均して 800m の距離以内で、オリジナルマップの範囲の境界には大通り、鉄道、観光名所、大規模施設が描かれているが、一部のマップでは銭湯が境界に近い箇所に立地していることが確認できた。これらの結果から、銭湯がゲストハウスから見た際にランドマーク的役割を持ち、オリジナルマップの範囲、すなわちゲストハウス周辺空間を定義する上で一定の影響を与えている可能性があることを指摘できる。

4. 京都市における銭湯及びその周辺空間の変遷

4.1. 都市における銭湯の役割

銭湯は、内部の人間にとってはコミュニティ形成の場として機能し、外部の人間にとっては地域の生活を体験でき場所になっている。また近年は観光資源としての側面も持ち合わせているが、単純な観光資源として消費されるべきではない点もある¹⁰⁾。

4.2. 京都市における銭湯立地の変遷

銭湯の配置基準は公衆浴場法（昭和 23 年法律第 139 号）第 2 条第 3 項によって都道府県（保健所を設置する市では市）が条例で定めることとなっており、京都市では京都市公衆浴場法に基づく衛生上必要な措置の基準等に関する条例第 3 条によって「一般公衆浴場相互間の最短距離が 250 メートル以上であること」と規定されている。図 5 が示すように、1951 年時点では銭湯同士の距離は条例で定められた 250m よりも近いことが多く、また銭湯の圏域は京都市中心部全体と大きく覆っており、京都市民にとって身近な存在であったことが伺える。一方で 2020 年には特に中京区・下京区東部の商業地域で銭湯がカバーする範囲がほとんどなくなっていることがわかる。

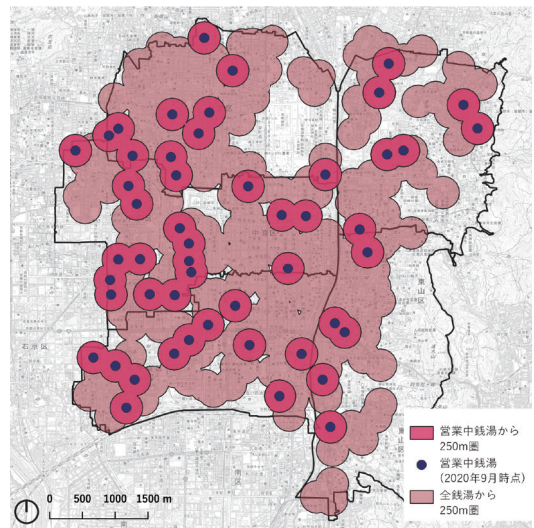


図 5 京都市中心部の銭湯分布

4.3. 銭湯周辺空間の変遷

京都市左京区の銭湯を対象に半径 250m 以内に立地する施設の変遷を調査した。銭湯から 100m 以外とそれ以外の部分では飲食、小売、サービスの商業用途の減少率が異なることがわかる。これには用途地域の影響もあるだろうが、銭湯の地域における中心性を示しているとも言える。

また 2015 年以降銭湯周辺には宿泊施設の立地が見られるようになった。住環境の更新が進み銭湯の利用者が減ることが予想される中で、宿泊施設からの銭湯利用を考える必要がある状態になってきていることが伺える。

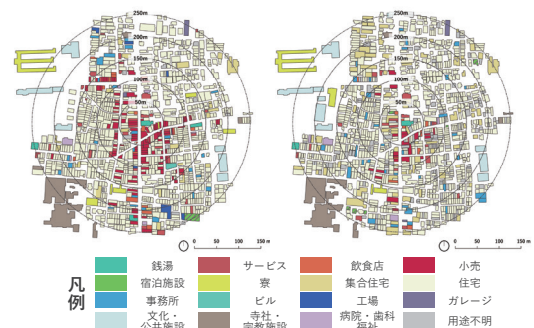


図 6 銭湯周辺施設（左：1966 年 右：2020 年）

5. 京都市における「銭湯志向型ゲストハウス」の特徴

5.1. 京都市における「銭湯志向型ゲストハウス」の分布

京都市では「銭湯志向型ゲストハウス」が集積しているような場所は特段見られるわけでは

施設名称	所在地	開業年	運営	金貸	金付	金受付	金受付	案内している 経営者としての経験	備考
ゲストハウス 大森町	東京都	2013	個人	-	○	-	受取分	水原正幸	
R&K YOMIYU	東京都	2017	個人	-	○	-	受取分	久保田雅也	
ゲストハウス 大田区	東京都	2011	個人	○	○	-	受取分	大田 洋子、大田 隆子、大田 幸子、大田 幸子	
東京ゲストハウス 大田区	東京都	2012	個人	-	○	-	受取分	ラングラー・セザンヌ・ラングラー	
ゲストハウス 大田区	東京都	2012	個人	○	-	-	受取分	近藤寛之	
ゲストハウス 大田区	東京都	2006	個人	-	○	-	受取分	池田チカ・ナカサネ	
ほろろ 大田区	東京都	2012	公営	-	-	-	受取分	近藤ト	
大田区民会館	東京都	2011	公営	-	-	-	受取分	近藤ト	
大田区民会館 GUESTHOUSE	東京都	2008	個人	-	○	-	受取分	近藤ト	
大田区民会館	東京都	2016	個人	-	○	-	受取分	近藤ト・大田幸子	
スズメゲストハウス	東京都	2016	個人	-	○	-	受取分	近藤ト・大田幸子	
大田区民会館	東京都	2017	個人	-	○	-	受取分	近藤ト・大田幸子	
大田区民会館	東京都	2013	個人	-	○	-	受取分	近藤ト・大田幸子	
大田区民会館	東京都	2010	個人	-	○	-	受取分	近藤ト・大田幸子	

5.2. 京都市における「銭湯志向型ゲストハウス」の取り組みと課題

6. 結論

近藤 達彦 (2020)「京都府北部の簡易省型ジェントリフィケーションに対する居住者評価—京都市下京区修善寺地区を事例として」日本建築学会計画系論文集(772), pp.1195-1205 / 河川幸恵、田代仁 (2019)「まちやど」の特性と可能性：観光と生活の調和的相互作用に「着目して」PRL 研究(22), pp.120-127 / 松下直雄 (2016)「持続可能なツーリズムとおとしめる観光再生の取組模範：イタリアのアルベルロ・デュッポーの取り組みを事例として」都市計画画報学専攻 No.14, pp.359-363 / 松本小夜子 (2016)「都道府県別みた宿泊ゲストハウスへの開業実態」相山女子大学大学院設計学術科 自然科学賞(47), pp.95-107 / 三井川美津, 山村高海 (2014)「国内における泊施設施設デザインガイドブックの実践と利用の実態に関する研究」都市計画画報学専攻 49(2), pp.140-145 / 石中美佳 (2018)「国内におけるゲストハウスの特徴の変化に関する一考察：2012年～2017年に実施した質問紙調査と比較」都市計画画報学(17), pp.64-70 / 大田吉孝 (2020)「東京都区部におけるゲストハウスの多様化の要因と現状」地理学地理学ノスタルジア(22), pp.147-158 / 片桐節郎、森田真也 (2017)「都市空間滞在性の動向と共用空間のありかたとの関係に関する基礎的研究」都市計画法(2017), pp.57-67 / 中山隆夫、谷根昌宏 (2019)「商業施設と店舗を活用したゲストハウスが近頃注目を集めている理由について」東海市発行報告書, pp.525-528 / 片岡由希子, 植札礼子, 永寿記 (2015)「東京都北部の簡易省型ゲストハウスにおける交流機能に関する研究」観光科学研究(8), pp.61-69 / 澤田彩香, 岡嶋理生 (2012)「都市型観光滞在型ゲストハウスの地域づくりの可能性に関する研究」：関西大学のゲストハウスを事例にして」日本都市計画学会関西学研究発表会講演概要要録 No.10, p.1-4 / 上桂佳子, 佐野晃弘 (2018.3)「ゲストハウスの共有スペースにおける空間構成要素から見た入りやすさコミュニケーションの取りやすさに関する研究」日本建築学会研究報告書 九州支部, 1.構造系(57), pp.61-64 / 山本真実, 三輪康一, 栗山尚子 (2018)「サードプレイスとしてのゲストハウスの実態とその評価に関する研究」：関西圏における事例の評価を通じて」日本建築学会企画論文発表大会報告書 計画系(58), pp.285-288 / 渡辺清海, 岡田文花, 並井貴明 (2015)「イタリヤの集合住宅を家々再生における運営と改修の観点から」アルベルゴ・デューポネの研究」農村計画誌(2015), pp.101-102 / 山口清純, 丁村彰男, 小野良平, 熊谷浩一 (2000)「東京臨海副都心を事例とする銭湯の立地特性と空間機能に関する研究」ランドスケープ研究 : 日本造園学会誌 = journal of the Japanese Institute of Landscape Architecture 63(6), pp.735-738 / 加藤優二 (2018)、「まちを築く（つづ）え」銭湯めぐり：銭湯を利用したまちづくりとコミュニティの実践」新都市(72)(9), pp.97-100 / 丸山健太郎 (2017)「東京湾内にある都営団地の再開発事業と公共空間の活用」空間情報学雑誌 地域版第 33(4), pp.33-44 / 丸山健太郎 (2017)「銭湯は公共空間と公共空間と両方兼ねるか（特集 東京の公共空間）」地域環境 619, pp.24-29 広原眞樹, 観光立国政策と観光都市京都—インバウンド、新型コロナに翻弄される京都の観光文化展開, 2020 / 阿部大輔, 京都市—オーパーズツウズ—界隈を再生する観光戦略, 学芸出版会, 2020 / 辻林博, 京都市極楽寺銭湯調査, 澁交社, 2011